

「青色申告・振替納税の村」を宣言 役場前に宣言塔を設置

青色申告・振替納税の村宣言

悠久に流れる阿賀野川のよ
うに、大空にかかる横雲橋の
ように、大地に波うつ稲穂の
ように人間性豊かなふるさと
横越村を創造し、活力ある地
域社会の発展を図るためには
財政の健全な確立が必要であ
り、その基盤となるものは、
民主的な租税制度と、完全な
納税の履行である。

これら制度の円滑な働き
があつてこそ、地域社会の経
済活動に力がつきその振興発
展に大きく寄与することは言
を待たない。
これら制度の精神を再認識
すると共に、一層の理解と普
及に努めなければならぬ。
わが横越村は、納税意識の
高揚によって、永年培われて
きたよき精神的土壌を、一層
肥沃なものにするともに、
明るく住みよい村づくりに決
意を新たにし、まい進するこ
とを誓ひ、ここに「青色申告
・振替納税の村」を宣言する。
昭和六十二年十一月六日
新潟県中蒲原郡 横越村



宣言を行う実行委員長の佐藤収入役

申告納税思想の高揚と納税
意欲の向上を図るため、村で
は「青色申告・振替納税の村」
の宣言を行う、その宣言式典
が十一月六日農村環境改善セ
ンターで開催されました。
村での振替納税の普及率は
県平均を上回る七〇%近くに

なっていますが、青色申告は
年々普及してきているものの
まだ低い状況にあり、また、
納税率も年々低下してきてい
ることから、今回の宣言を契
機に成果を上げ、正しい申告
と納税によって、財政の確立
を行い明るく、住みよい村づ
くりを推進していこうという
もので、県内では五番目の宣
言となりました。
当日は、役場前に設置され
た宣言塔（高さ三・四メートル）の
除幕式に続いて、式典では関
東信越国税局をはじめ多くの
来賓や、村内関係機関など百
三十名余りが出席するなか、
宣言までの経過報告があつた
後、推進実行委員長の佐藤収
入役より「青色申告・振替納
税の村」（別掲）の宣言が行

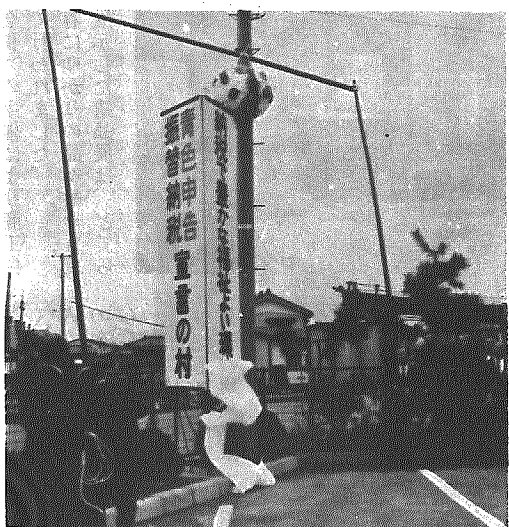
宣言にあたって

横越村青色申告と振替納税
推進実行委員長 佐藤 栄太郎

この度、横越村は青色申告
・振替納税の村を宣言いたし
ました。これは自主的な申告
納税思想の高揚と納税意欲の
向上を図るためのものであり
ます。
納税の義務は言うまでもな
く、私たち国民に課せられた
最も重要な義務の一つであり
ます。私たち国民はこのこと
を深く心にとめ、今日に至る

まで申告納税制度を忠実に遵
守し、正しい申告と期限内納
税に努力しながら国、県、村
の財政の一翼を担ってきたと
ころでございます。
ご承知のとおり我が国では
戦後間もない、昭和二十二年
四月に先ず直接税について、
申告納税制度が導入され、以
後その他の税もこの制度によ
り拡大され今日に至っており

ます。
この制度は納税者が自ら
税額を計算して自発的に申告
し、かつ納付する最も民主的
な税制といわれております。
昭和二十五年シャープ勧告に
基づき青色申告制度が創設さ
れ、以来諸官公庁等の熱心な
指導のもとで、その普及はめ
ざましく、現在では全国で二
百六十万人、本村では百八十
二人が申告をされております。
また、納税の方法も経済社
会の発展にともない、納税者
にとっても便利で税務当局の
事務合理化ともなる、口座振
替での租税収入を図り、本村
でも現在約七〇%近い成績を



役場前に設置された宣言塔の除幕式

あげています。
しかし、本村における納税
率は年々低下をきたし憂慮し
ておるところです。それもほ
んの一部滞納者によるもので
あり、このような不本意な納
税実態が続くようなこととな
りますと、将来村の発展の大
きな支障となることはあきら
かでありませぬ。
この度の青色申告と振替納
税の村の宣言を契機にし、一
〇〇%納税の明るく豊かな住
みよい村づくりが推進できま
すよう、村民各位の一層のご
理解とご協力をお願い申し上
げます。

毎年「みんなで明るい正月
を」ということで、施設入所
者長期病院入院者、生活保護
世帯、一人暮らし老人世帯、
長期おたきり老人世帯、重度
身体障害（児）者の方々に歳
末慰問を実施してきておりま
す。
今年も慰問を実施するため
一世帯当たり三百円を目標に
歳末たすけあい募金にご協力
くださるようお願いいたします。
共同募金会 横越分会
横越村社会福祉協議会

歳末たすけあい
募金にご協力を

横越 中学校

創立四十周年記念式典 大勢の来賓や在校生で祝う



記念式典で式辞を述べる伊藤校長

横越中学校の
創立四十周年記
念式典が、十一
月八日に多数の
来賓と創立以来
の教職員関係者
や生徒らが出席
して、同校体育
館で行われまし
た。
横越中学校は、
昭和二十二年五
月に旧横越小学
校に併設で開校
され、昭和二十
四年に現校地に
北校舎が建てら
れて以来、体育
館や校舎の増改
築などの整備が

されたほか、教育関係者など
の努力でよりつばな伝統ある学
校となりました。
式典では、伊藤校長の式辞
小出PTA会長のあいさつに
続き、浅見村長や田中元校長
などから当時の思い出を交え
たお祝いのご挨拶などがあつ
たあと、田村生徒会長から喜
びのご挨拶が述べられました。
式典後は、日本YWCA（
日本キリスト教女子青年会）
の常任委員として世界総会に
出席するなど、難民問題に取
り組んでいる敬和学園高等学
校長夫人のはつみ・モス氏の
記念講演が行われ、「他人の
ことを考えられる人間に。そ
して世界市民として生きてい
く」という自覚を持つて欲しい

農業共済事業に功績 陸 庄信 仲村 忠雄 両氏に感謝状

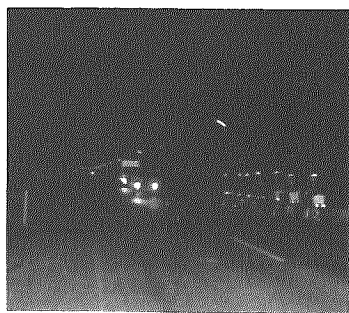
十月九日、陸庄信さん（焼
山）、仲村忠雄さん（二本木）
に、新潟県農業共済組合連合
会長から感謝状が贈られまし
た。
これは、農業災害補償法施
行四十周年を記念して贈られ

たもので、陸さん、仲村さん
は、横越村農業共済事業運営
協議会委員など（勤続十五年
以上）、永年に亘る農業共済
発展のために尽くされた業績
が認められたものです。



陸 庄信さん 仲村忠雄さん

横越・木津間に 防犯灯を設置 夜間も明るく安心



夜間の防犯や交通事故防止
の一環として、このほど横越
中の阿賀野川浄水所から木津
塚田牛乳前までの約一・八
キロの区間に防犯灯が設置され
ました。
設置工事は、昨年度木津側
に十三灯、今年度に十一灯を
と語られ、生徒らは真剣に聞
き入っていました。

二ヶ年計画で実施したもので
約八十メートル間隔に二十ワットの
照明器具が取り付けられまし
た。
この設置により木津・二本
木地区の通勤、通学者は、夜
間の明るくなった道路を安心
して通れるようになりました。

また、四十周年を記念して
式典のほか九月に記念運動会
十月には記念文化祭が行われ
今後記念誌の発行も計画され
ています。

国民年金の 標語募集

新潟県では、年金制度の役
割とか、国民年金への加入や
保険料を納めることの大切さ
などを、わかりやすく表現し
た自作、未発表の標語を募集
しています。

▽応募先と問い合わせ先
〒九五五 新潟市新光町四番地一
新潟県民生部国民年金課
標語募集係宛
☎二八五―五五一
内線二五八六・二五八七
▽締め切り
昭和62年12月31日
（当日消印有効）
▽応募方法
①官製ハガキを使用。
②応募点数は自由。ただし、
ハガキ一枚につき三点まで。
③ハガキには、住所・氏名・
年齢・職業・電話番号を。
▽応募資格
県内に住む人
▽応募方法
①官製ハガキを使用。
②応募点数は自由。ただし、
ハガキ一枚につき三点まで。
③ハガキには、住所・氏名・
年齢・職業・電話番号を。

建設工事入札結果

1. 工事名	横江農道工事
2. 工事場所	沢海地内
3. 入札日	昭和62年10月30日
4. 入札業者	7 業 者
5. 落札額	1, 160万円
6. 落札者	遠 藤 組
7. 工 期	S 62.10.30 ~ S 63.2.6

製造事業所の皆さんへ



昭和62年
工業に関する
統計調査に
ご協力を

通商産業省では、昭和六十
二年の「工業統計調査」、「石
油等消費構造統計調査」及び
「工業実態基本調査」を十二
月三十一日現在で行います。
調査の対象となる製造業を営
む事業所には、年末から一月
にかけて調査員が伺います。
調査表に記入された内容は
統計以外の目的に使用される
ことは決してありませんので
安心してご協力くださるよう
お願いいたします。